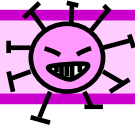


感染症に気をつけよう!

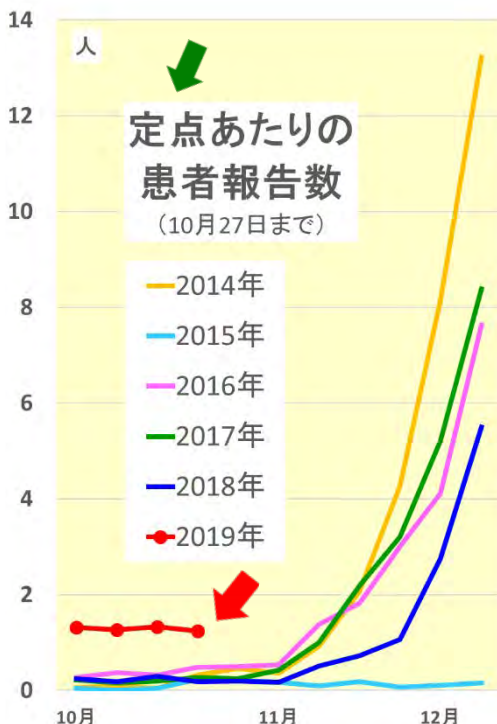
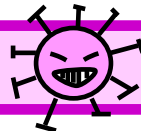
2019年【11月号】

横浜市内の感染症 流行状況



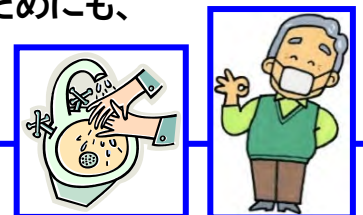
感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
<u>インフルエンザ*</u>	流行	横ばい	例年より早く10月初めに、定点あたりの患者報告数が「1」を超え、 流行開始 しました。【'19.10号】
<u>麻しん*</u>	発生		7月以降、報告がありませんでしたが、9月と10月には報告がありました。【'19.6号】【 予防接種 】
<u>腸管出血性大腸菌感染症*</u>	多発	横ばい	報告が多いです。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【 ちらし 】
<u>風しん*</u>	多発	横ばい	男性20～40代、女性20～30代に多いです。 予防はワクチンが有効 です。【'19.4号】【 予防接種 】
<u>手足口病*</u>	警報	横ばい	7月にピークとなり、8月以降は減少していますが、まだ 警報発令中 です。【'19.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- **定点**とは、毎週、患者数を報告していただく医療機関のことで、インフルエンザの場合は市内に153か所あります。
- そこから報告された1週間の患者数の平均が、**定点あたりの患者報告数**です。この数値を用いて、流行状況を把握しています。

- 予防の基本は、**正しい手洗い***の習慣です。
- かかったかな!と思ったら、**咳エチケット***を守り**早目に受診**してください。重症化を防ぐため、また、他の人にうつさないためにも、無理をせず学校や仕事は休みましょう。



参考ホームページ*:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】